第49回広島市植物公園 植物写真コンテスト　審査結果

賞	氏名（敬称略）	題名	被写体の種名
最優秀賞	山崎　幸	カラフルタワー	ハオルチア
特　　選	山本　明	秋晴れの遠足	コスモス
	中常　一男	鯉の花見	―
	﨑田　元士	白き炎の舞	シロバナマンジュシャゲ
	高取　一巳	危ない唇	オオオニバス
準特選	中川　満寿男	ネモフィラに憩う	ネモフィラ
	川崎　修司	森のアート	―
	大下　昌子	夏の露	キレンゲショウマ
	大下　実々	ディネ・オ・フルール	―
	末永　睦恵	光と青と白のコントラスト	オオオニバス
入　　選	大戸　冨士惠	コメディアン	ラン
	橋澤　宏明	影	ハイビスカス
	畔上　尚子	雪の中の華	ハボタン
	城根　多佳子	みんな集まれはいチーズ	モンキーオーキッド
	野本　洋一郎	背比べ	アイスランドポピー
	川崎　民子	雪つり	―
	藤岡　美治	積雪の朝	―
	黒澤　健介	フラワートンネル	ラン
	神田　洋義	なににみえる?!	タッカ シャントリエリ
	高取　一巳	凍る池	スイレン
佳　　作	大戸　冨士惠	凛として	熱帯スイレン
	三好　奈緒	スポットライト	ビヨウヤナギ
	中川　満寿男	光彩	パフィオペディルム
	古河　英二	フラワーウォール	ラン
	斉藤　三四子	旅立ち	イカリソウ
	石川　伸一	静	ヒスイカズラ
	山本　明	雨後の蝋梅	ソシンロウバイ
	渡邉　高市	大輪花の色変化	オオオニバス
	渡邉　高市	水色の大海原	ネモフィラ
	賀中　義隆	雪のローバイ	ソシンロウバイ
	大嶋　徹也	八重桜	ヤエザクラ
	有馬　正治	虫たちが見る景色	ヒガンバナ
	石井　徹	星の誕生	グラプトペタルム
	黒澤　和彦	花の妖精	シルトキルム パルビフロールム
	神田　洋義	夜空に届くか！	オーストラリアバオバブ
	﨑谷　慎太郎	アサギマダラ	フジバカマ、アサギマダラ
スナップ賞	山田　泰司	輪	サクラ
	高田　良治	遠足の列	―
	森藤　勝弘	落葉に負けず	フデリンドウ
	八田　雅晴	花に囲まれて	ヒラドツツジ
	野本　洋一郎	花よりメダカ	―
	有馬　正治	絶景花畑にて	ネモフィラ
	岡本　由貴	秋色の昼下がり	イチョウ
	高本　友博	ススキの下の夏	トキワススキ
	高本　友博	花摘み娘	ハナショウブ
	藤岡　美治	雪囲い	ボタン

総 評

審査日：令和7年12月10日　応募数：93名より351点

審査員：光武 聡一郎（広島市植物公園園長）
紺野　昇（芸北写真塾主宰）
河野 宏志（全日本写真連盟関西本部委員）

写真コンテストで入選の可否を決める時間は「2秒だ」。一瞬のうちに入選かどうかが決まる。瞬時に決められる最も重要なのは作品の持つ印象度。言ってみれば印象度が作品審査の一次審査。最大の鍵である。

モノクロ時代に作品選定の基準は構図が重要なポイントだった。色彩よりも形や質感を重要に考えてきたからだ。現在は色彩の印象によって画面を構成することが重要視される。カラー写真ではモノクロと違って被写体の色彩から受ける印象が大きな比重を占める。色の組み合わせによる視覚的効果を考えるようになってきた。

今回の審査も応募351点の中から一次審査の難関を突破した50点近い作品が選ばれた。その中から審査員の話し合いで最優秀賞、特選などの賞が順次決定していく。癒やされる写真、微笑ましい写真、想像を超える構成の写真など水準の高い作品が多く審査員を悩ませ、苦しませ、楽しませて決定に時間がかかった。

来年は50回の節目の年。どんな作品が来るか。審査員を悩ませる作品がたくさん応募されることを期待している。

［ 芸北写真塾主宰　紺野　昇 ］

春夏秋冬四季折々に花は私たちを楽しませてくれたり、ある時は慰めてくれたりと言葉以上の何かが私たちに安らぎを与えてくれます。

この度第49回広島市植物公園植物写真コンテストの審査に参加させて頂きました。机に並べられた300余枚の作品に圧倒されました。いずれの作品にも撮影者の個性と熱意を感じました。花の撮影は背景を生かして余儀なく撮影しなくてはならない場合がある為、花自体をアップにして撮影している作品が目立ちました。

どんな被写体でも何をポイントに撮影するか皆さんは常に意識されていると思います。動物の場合は眼、植物特に花であればやはり雄蕊、雌蕊ではないでしょうか。残念ながら今回の審査ではピントが甘い作品が多かったと感じました。それさえ撮影時に改善されれば、かなりの作品が２次審査を通過するものと感じました。

ご存じの方もおられると思いますが、撮影時の基本事項を申し上げます。まず撮影場所（例えば花園）に到着した時、すぐカメラを構えるのではなく周りを見渡して下さい。撮らされるのではなく、自分が撮りたいと思う花を見つけましょう。次に正面から見たり、しゃがんで見上げたり、上から見下ろすパターンや背景の色と重ならないか等々を考え写真の出来上がりを想像してみます。そして構図が決まりましたら、初めてカメラを取り出しましょう。

最近のデジタルカメラには優れた手振れ防止の機能がついています。手持ち撮影の場合、その機能に過信せず両脇をうち側に絞りカメラを構え、シャッターは指を添える程度に切りましょう。出来ればオートフォーカスよりもマニュアルフォーカスをお勧めします（前後に体が動かない様心がけましょう）。三脚とレリーズを使用する場合、手振れ防止機能はＯＦＦ、三脚はしっかり固定しましょう。レリーズ使用でカメラの前下方にかかるブレを抑えることが出来ます。手持ち撮影同様、マニュアルフォーカスでしっかり撮影ポイントに焦点を合わせます。カメラを動かすことなくレリーズを使用するとまずブレは解消されます。

三脚、レリーズをお持ちでしたら出来る限りご利用をお勧めします。ブレ写真を10枚撮るよりブレの無い１枚を目指しましょう。来年の写真コンテストでは審査員を困らせるほどの出来栄えの良い作品を期待します。

最後になりましたが写真撮影行では安全第一を心がけましょう。いくら素晴らしい作品でも命を引き換えにするまでには至りません。写真を愛する皆様の益々のご活躍を祈念いたします。

［ 全日本写真連盟関西本部委員 河野 宏志 ］